

東北地方向け基本方針

- 東北各地で相次ぐ豪雨など自然災害から“命”を守る防災・減災報道を強化するとともに、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震などへの備えを検証し、地域の防災力の向上につなげます。新型コロナウイルス感染症から命を守り、暮らしの安全を支える情報や、物価上昇による家計への影響などの身近な情報をタイムリーに発信します。また、人口減少など地域の課題を見つめて解決につながる対策をさまざまな角度から提示します。選挙報道では有権者の判断に資する情報を正確・迅速、公平・公正な放送で伝えます。
- 自然・文化・暮らしなど東北の魅力あふれるコンテンツを届け、地域に住む人々の“ふるさと”への愛着を深めます。また全国にも発信し、温泉地など長期化するコロナ禍でダメージを受けてきた地域社会を応援します。週末の地域情報番組では、デジタルをさらに活用し、地域密着の情報をより多くの視聴者に届けます。
- 東日本大震災から12年。地域の“にぎわい”の再生や原発事故からの復興など、いまだに多くの課題が残る被災地の現状を伝え続けます。蓄積されたデータを活用して復興政策の検証を進め、これからの復興のあり方を被災地の人々とともに考えます。放送だけによらない多様な形で震災の経験に触れる機会をつくれます。
- 放送とデジタルやイベントの連携を進め、学生や子育て世代にもタッチポイントを広げて、地域のイベントやスポーツを盛り上げ、感動と共感の輪を広げます。視聴者とのコミュニケーションをより充実させ、地域の方々とともにコンテンツを創る取り組みを進めます。

各局の重点事項

仙台放送局

- **平日午後6時台は地域とつながる“ポータルコンテンツ”として強化します**

平日午後6時台のニュース・情報番組は、“宮城のきょう1日がわかり、あすの暮らしに役立つ”をキーワードに、生活者目線に立った取材で視聴者の“知りたい”に丁寧に応えます。各市町村の旬の話題を寄せてもらい、身近な地域の魅力を発見・発信するなど、番組を視聴者と一緒に作り上げていくことを強化します。その他の地域放送番組と連動したコンテンツのマルチ展開も進めながら、デジタルやイベントの場も活用して地域と深くつながり、働く世代や若い世代にもしっかり届けます。
- **放送・デジタル・イベントを連携させたコンテンツを若い世代にも届けます**

東北温泉地応援プロジェクトでは、デジタルを活用した参加型企画を実施するなど、地域の元気につながるきっかけを作ります。過去に取材・撮影した映像で故郷の魅力を再発見してもらうアーカイブス活用や、世代を超えて未来に伝える震災伝承など、地域の公共メディアとしての役割を果たします。祭り・音楽フェスティバル・スポーツイベントなどの催しと連動して、視聴者と一体となって地域を盛り上げます。デジタルやイベントを連携させたさまざまなコンテンツを通じて、幅広い世代、特に学生や子育て世代との放送外での接点を増やします。

秋田放送局

- **地域の暮らしを支える情報の社会的基盤としての役割を果たします**

自然災害が激甚化する中、台風や豪雨、大雪などのおそれがある場合には早い段階から、きめ細かな情報の発信に力を入れます。放送に加えインターネットも活用して防災情報を届けます。県内で83人が犠牲になった日本海中部地震から40年の節目にあわせて、ニュースや番組を通じ、記憶の風化を防ぐとともに、津波への備えを呼びかけるなど、地域の防災力強化に貢献します。週末も含め毎日午後6時台の地域放送番組で、新型コロナウイルスをはじめ、日々の生活に直結する情報や、各地の詳しい気象情報を伝え、地域の暮らしに役立つ放送サービスに尽力します。
- **地域の課題を見つめ、秋田の明るい未来へ向けて一緒に考えます**

国内有数の適地として建設が進む秋田県沖の洋上風力発電による県内産業の活性化の可能性や、赤字に悩む地域の公共交通機関の今後のあり方など、地域の課題やテーマと向き合い、ともに考えます。秋田の将来を担う若い世代に焦点をあて、チャレンジを応援する番組などを発信します。また、豊かな自然や多様な文化など秋田の魅力を掘り起こし全国にも届けることで地域の活性化に貢献します。地元のプロスポーツの中継などを通じ地域に元気を届けます。コンテンツと連動したイベントやデジタル展開なども活用して地域の人々との接点を増やし、身近で信頼される放送局を目指します。

山形放送局

- **放送とデジタルの両輪で地域の魅力を多角的に発信し、地域に新たなつながりを創出します**
“やまほど、やまがた愛”のキャッチフレーズのもと、米や果物、日本酒などに代表される豊かな食文化、特色ある伝統や歴史など多彩な魅力を、放送とデジタルを駆使して発信し、地域に元気と活力を届けます。また、豪雨で被害を受けた置賜地域で番組やイベントを集中的に展開するプロジェクトを全局体制で推進するとともに、山形市内には新たなサテライト拠点を設置、誰もが自由に集える親しみやすい空間を自治体や大学などと連携しながら育てていくことで、地域の視聴者との結びつきをより強めます。
- **“課題先進県”として地域の課題に向き合い、必要とされる放送局を目指します**
平日午後6時台のニュース・情報番組と金曜午後7時台の地域放送番組では、防災・減災、新型コロナウイルス感染症など県民が必要とする情報を正確・迅速に発信するとともに、少子高齢化や過疎化、主要産業である農業などの課題に丁寧に向き合う“課題解決型”の企画を強化していきます。また、土曜午前9時台の番組では、引き続き親しみやすさとわかりやすさを大切にし、新たな視聴者の獲得につなげます。これら個性あふれる3つの番組を効果的に展開していくことで、地域における存在感を一層高めていきます。

盛岡放送局

- **岩手県の全自治体の魅力を発信するとともに、県民の暮らしを守ります**
県内33の自治体ごとの魅力を、集中的に取り上げる企画を引き続き放送します。人口減少や経済の衰退などの地域課題、地域の美しい風景や伝統行事、それに地元のスポーツなどを幅広く伝えます。また、東日本大震災を巡る課題を踏まえ、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震をはじめ、今後想定される災害への対策など、防災・減災への意識を高めることに資する情報を発信します。
- **若い世代の意見に耳を傾け、放送・デジタル・イベントでつながります**
土曜午後6時台の地域放送番組を中心に、特に若者に焦点を当てたテーマを取り上げることで、地域と若者をつなげる役割を担います。また、若い世代に意見を聞く、独自のモニター制度を継続し、番組内容の改善に取り入れます。さらに、誰もが時間や場所を選ばず情報にアクセスできるよう、デジタル発信やNHKプラスの普及に努めます。そして、県内各地の集客力が高い大型商業施設に、テレビを見ないという人にも、NHKのコンテンツや取り組みを伝える拠点を設けるなど、放送・デジタル・イベントのあらゆるメディアを使って届けきります。

福島放送局

- **震災・原発事故からの復興や地域振興など福島県の課題に向き合い、地域に貢献します**
東日本大震災と原発事故からの復興やトリチウムなどを含む処理水の海洋放出の問題など福島県の課題に正面から向き合い、最新のVR技術も駆使して現状や課題を正確にわかりやすく伝えるとともに、相次ぐ地震や大雨などに対する緊急報道を強化し放送・デジタルで展開して県民の安全・安心に役立つコンテンツを発信します。原発事故による風評の払拭(ふっしょく)にもつながるよう地域

の魅力を発信し、県内の民放など他メディアと連携した取り組みを進めるとともに、地域のスポーツチームや観光、産業などを多角的に取材して地域振興に貢献します。

■ **より多くの県民に活用してもらえ放送局を目指します**

これまでタッチポイントが少なかった県民にも積極的に働きかけ、必要とされる放送局を目指します。県民から寄せられた身近な情報や疑問をさらに取り入れながら番組を制作するなど、双方向を念頭に置いて、県民とのつながりを重視したコンテンツを増やします。いつでもコンテンツに触れもらえるように、放送・デジタル・イベントを展開して、より多くの県民との接触機会を設けていきます。大学生が放送やイベントのアイデアを提案する「NHK学生委員会」などの取り組みを通じ、これからの福島県を担う若い世代にNHKの魅力を感じてもらおうとともに福島県の魅力を多角的に発信します。

青森放送局

■ **地域のみなさんと手を携えて、青森の元気を応援します**

世界遺産登録から30年を迎える白神山地や、生誕120年となる版画家・棟方志功、各地の夏祭りや豊かな食材など、青森には誇れる魅力がたくさんあります。その魅力を全国・世界に発信し、青森の元気を応援します。地域のみなさんと手を携えることを大切にしながら、地元で活躍する人を後押しする番組や、人々の疑問に答える取り組み、地域の活性化に貢献する機会を充実させ、“使ってもらおう”放送局への深化を一層進めます。

■ **わかりやすい情報発信で、広い世代の“知りたい”に応えます**

2022年夏の豪雨では、津軽地域に大きな被害がもたらされました。災害時はもちろんのこと、選挙や感染症といった日々の暮らしに関わる情報、またコロナ禍で受けたダメージや、少子高齢化、人口減少など、地域の課題についてわかりやすい情報発信に努め、地域のみなさんの“知りたい”に応えます。放送だけでなく、デジタルの活用や、学生や子どもに直接届ける機会を積極的に設けることで、幅広い世代に地域の情報を届けます。